

## 第 28 回岩手県食の安全安心委員会議事録

### 1 開催日時及び場所

令和 4 年 2 月 8 日（火）10 時 40 分から 12 時 00 分 岩手県産業会館 7 階 大ホール

### 2 出席者の氏名

#### (1) 委員

磯田朋子委員、小山田緑委員、菊地セツ子委員、山口真樹委員、後藤和彦委員、嵯峨潤子委員、佐々木安彦委員、佐藤圭委員、高橋一樹委員、新沼辰彦委員、梁川真一委員、及川亜希子委員、佐藤至委員、寺嶋淳委員

#### (2) 関係室課等

沼田智彦防災課主任主査、柚はなの学事振興課主事、八重樫香環境保全課主任主査、沖田潤一郎資源循環推進課主査、小野償子健康国保課主任主査、沼田芳宏流通課主任主査、久水しほ流通課主事、佐藤洋一農業振興課主任主査、猫塚修一農業普及技術課主任主査、澁谷まどか農業普及技術課上席農業普及員、菅野史拓農産園芸課主任主査、熊谷芳浩畜産課主査、阿部瑛水産振興課技師、中川友治保健体育課保健体育担当課長、根澤倫子保健体育課指導主事、佐々木透生涯学習文化財課社会教育主事、松山和弘環境保健研究センター衛生科学部長、桂木加代子県民生活センター主任主査

#### (3) 事務局

菊池正勝環境生活副部長、新沼司県民くらしの安全課総括課長、佐藤敦食の安全安心課長、阿部嘉智主任主査、白藤裕久主査、小野寺秀宣主任、古館航主事

### 3 議事の概要

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

菊池正勝環境生活副部長があいさつを述べた。

#### (3) 議事

##### ア 委員長及び副委員長の選任について

委員長に佐藤至委員、副委員長に寺嶋淳委員が選出された。

##### イ 食の安全安心の確保に係る令和 3 年度 of 取組状況と令和 4 年度 of 取組方向について

#### ①岩手県食の安全安心推進計画

##### 【質問・意見等】

- 磯田朋子委員 取組 26 の出前講座について、コロナ禍において実施回数が減っているか、開催に当たってはコロナ対策などで工夫している点はあるか教えて欲しい。

また、取組 39 に「地産地消促進計画未策定の市町村 2 か所に策定を働きかけた」とあるが、県全体で未策定の市町村はどれくらいあるか、働きかけの結果どうなったのか教えて

欲しい。

- **佐藤敦食の安全安心課長** 出前講座の回数は減っている。各地域の町内会や市町村からの依頼に基づき実施する事業であり、コロナの影響により依頼が減っていることによるもの。感染対策については依頼元で実施しているほか、当課においても職員の体調管理等を実施している。
- **沼田芳宏流通課主任主査** 地産地消促進計画未策定の市町村は年度初めに2市町あったため個別訪問を実施した。その結果、新たに1市町村が策定し、残る1市町村についても今年4月を目処に策定予定と聞いている。

## ②岩手県食育推進計画

### 【質問・意見等】

- **及川亜希子委員** 取組10の早寝早起き朝ごはん運動について、全県の学校で取り組んでいるのか。また、平成27年から朝ご飯を食べる子供が増加傾向であるが、県としてはこの取組の成果と捉えているのか。
- **佐々木透生涯学習文化財課社会教育主事** 寝早起き朝ごはん運動の推進にかかる文部科学大臣表彰は隔年の開催としており、今年度は開催がなく来年度開催予定になっている。教育振興運動に関連して啓発しており、教育振興運動は学校だけではなく子供会、公民館などの地域団体も含め500実践区で取組が行われている。生活・健康に関する事業で517件、農業体験や漁業体験などの勤労体験を127件実施しており食育につなげている。

### ※ 事務局からの後日回答

・朝食を食べる子どもの割合向上については、早寝早起き朝ごはん運動はもとより、教科等における食に関する指導、各種表彰、家庭への情報提供など様々な取組が連動することによって効果が発揮されるものと考えている。

- **及川亜希子委員** 早寝早起き朝ごはん運動の対象となる取組はどのような内容か。
- **佐々木透生涯学習文化財課社会教育主事** 文部科学省の指定する内容であり、学校・家庭・地域等において早寝早起き朝ごはんに関わる活動に取り組むというものになる。
- **佐藤至委員長** 取組20の健康的な食事推進マスターについて、今年度の養成者数が92名とあるが、累計では何人くらいか。
- **小野償子健康国保課主任主査** 平成30年度からスタートしており、累計で420名になっている。
- **佐藤至委員長** 相当な数が養成されているが日常的に活動されているのか。
- **小野償子健康国保課主任主査** コロナの影響もあり思うように活動できていない方もいると聞いているが、市町村の保健師や管理栄養士、学校の栄養士など通常業務で取り組まれている方もいる。
- **及川亜希子委員** 取組22のバランス弁当について大変面白い取組だと思うが、県民が実際にこのお弁当を食べたり、レシピを学べる機会はあるのか。

- **小野償子健康国保課主任主査** 学校や地域で調理実習をした料理を、専用の弁当箱に詰めてお弁当を作る活動をしている。
- **及川亜希子委員** ぜひ周知を図り、活動を広げて行って欲しい。活動件数はどれくらいか。
- **小野償子健康国保課主任主査** 活動件数は把握していない。
- **佐藤敦食の安全安心課長** 食育推進全国大会においても、各地域の食生活改善推進員連絡協議会に御協力いただき、県産食材を中心にバランスを考慮した弁当ということで地域ごとのレシピを公開している。本日お配りした資料に掲載があるが、県のホームページからも見ることができる。食育キャラバンなどの機会をとらえてバランス弁当のページを周知して、取組を進めて行きたいと考えている。
- **山口真樹委員** 食育については小さい頃からの教育が大切だと思う。現在、1人1台のタブレットを持って学習しているが、それを活用できるようなウェブ配信の講座受講やアンケートへの一斉回答、質問・クイズ形式で学ぶなど色々な方法を考えていただければと思う。
- **中川友治保健体育課保健体育担当課長** GIGA スクール構想で1人1台端末を配布しており活用を進めて行く。これまで、不足しがちな運動時間を意識づけさせるために1日60分以上の運動をした記録としてチャレンジカードを作成していたが、来年度には、朝食などの食育・食習慣、睡眠時間などの生活習慣と関連付けた新チャレンジカードを作成することになっている。その先に、1人1台端末を活用したデータ化や、ICTを活用して子どもが小さいころから自分で食習慣、生活習慣を身に付けられるような取組を検討することになっている。
- **小山田緑委員** 取組74の子ども食堂について、いわて生協でも子ども食堂に食材費購入の支援を行っている。県では新設の際に補助を行っているようだが、今年度新規で開設した数はどれくらいか。また、「子どもの居場所ネットワークを通じた支援」とあるが、ネットワークに入っていない所もある。そのようなところへ補助は行っているのかどうか教えてほしい。  
もう一つ、いわて生協では食材を買った際に20%引きの支援を行っているが、市からも支援があるようで、2重に支援を受けて良いのか子ども食堂から聞かれることがある。どのようになっているか分かれば教えてほしい。
- **佐藤敦食の安全安心課長** 担当課が所用により欠席のため、後日回答させていただきたい。県内の子ども食堂の総数としては66件と聞いている。
- **新沼司県民くらしの安全課総括課長** 1点補足させていただきたい。令和4年度の県民くらしの安全課における子ども食堂への支援として、飲食店がメニューや場所の提供などの面で子ども食堂に協力するため、両者をマッチングする取組などを検討している。

#### ※ 子ども子育て支援室からの後日回答

- ・ 今年度、市町村を通じて把握した新規開設の子ども食堂の数は11か所である。
- ・ 新規開設や機能強化に要する経費の一部補助については、「子どもの居場所ネットワークいわて」への加入の有無に関わらず補助を受けることができ、市町村が運営団体等に対し補助を行った場合、県は、市町村に対し経費の1/2を補助しているものであり、市町村を通じて間接的に運営団体等に補助を行っている。
- ・ 「子どもの居場所ネットワークを通じた支援」について、「子どもの居場所ネットワークいわて」に対して申し出があった企業等からの食材支援や寄付に係る情報提供、マッチングについては、会員となっている運営団体等に対して行っている。  
なお「子どもの居場所ネットワークいわて」では、総合相談窓口として、子どもの居場所づくりの設置を検討している個人・団体からの相談や支援を希望する企業等の申し出など、会員以外からの様々な相談にも応じ、必要な支援や助言等を行っているところ。
- ・ 各市町村が実施している補助事業について、詳細を把握していないため、団体等から問い合わせがあった際には、補助を行っている市町村の担当課へお問い合わせいただくようお願いいただきたい。

#### ウ 令和4年度岩手県食品衛生監視指導計画（案）について

##### 【質問・意見等】

- 佐藤至委員長 令和3年の自然毒による食中毒2件について、両方きのこが原因か。
- 佐藤敦食の安全安心課長 1件はニラと間違えてスイセンを誤食したもの、もう1件はきのこによるもの。
- 菊地セツ子委員 産地偽装について不安を感じる割合が32.8%と結構割合が高い。テレビで熊本産アサリが話題になるなど、買う側にとっては不安を感じるが表示を信じて買うしかない。産地偽装のチェックはどのように行われているのか。
- 佐藤敦食の安全安心課長 様々なケースがあるが1つの例として、国では様々な食材の買い上げ調査を行っており、疑わしい事案があれば国からの通告を受けて県が調査するなど連携して対応している。過去には岩手県産とされていたワカメが中国産だった事案もある。
- 佐藤至委員長 食品に不安を感じる割合のアンケートについて、放射線関係は選択肢にもあるのか。
- 佐藤敦食の安全安心課長 入っている。
- 佐藤至委員長 割合としては、それほど高くない結果だったのか。
- 佐藤敦食の安全安心課長 年度ごとに変動があるが、極端に低い訳ではない。真ん中くらいにはなっている。
- 後藤和彦委員 放射性物質について、経産牛、一定の月齢以上などの条件に合致する牛は、と畜の際に全頭検査しているがほとんど引っかかる牛はいない。いつまで検査を

続けることになるか。

- **佐藤敦食の安全安心課長** 国の指示により県が計画を策定して検査しているもの。国のルールで一定期間の不検出や定点検査などを経て対象区域を解除するようになっていたため、国の判断となる。
- **後藤和彦委員** 解除の際には地域を限定して徐々に、ということになると思うが先が見えれば生産者にも消費者にも良いのではないかと思う。
- **佐藤至委員長** 国に対して要請や、意見を伝えるといった動きはないか。
- **佐藤敦食の安全安心課長** 要請は行っている。肉用牛の例のように、妥当な計画を作成したうえで放射性物質のリスクがない生産流通が担保されれば部分解除される制度がある。
- **佐々木安彦委員** 水産業界は反対しているが処理水の問題が控えている。震災後 10 年経っているが、適切な食品であることが証明できるように状況次第では検査の継続、さらには風評被害が生じないようにリスクミヤ講習会等と連動した情報提供など、状況に合わせて対応していただければと思う。
- **梁川真一委員** 産直に出荷している農家の方々にとって HACCP や食品表示の内容把握が難しくなっており、各産直は大変な思いをしている。農業改良普及センターなどの講習を受講しているが、私が参加している一関地区では毎回同じようなメンバーが受講しているため出荷者の受講率が気になっている。行政として検査や指導だけではなく、産直を巻き込んだ受講率の向上などに取り組んでもらえればと考えている。
- **佐藤敦食の安全安心課長** 適正な表示、消費者が安心して購入できることを目指して、県庁内でも情報交換しながら取り組みたい。

## エ その他

(ア) 事務局から、資料 5 により食の安全危機事案の対応について報告があった。

### 【質問・意見等】

- **後藤和彦委員** 豚熱について、野生いのししの陽性事例が宮城県の大崎市まで見つかっている。ワクチンを打っても豚熱が発生する背景として、ワクチン接種が必要な頭数に対して獣医が足りないのではないか。獣医が指定した農場長が接種できるようにするなど、制度を検討してほしいと思う。
- **熊谷芳浩畜産課主査** ご指摘のとおり、ワクチンを頻回で打てる体制を整えなければならぬ。豚熱のワクチンについては知事が指定した家畜防疫員（獣医師）が打つことが法律で定められている一方で、新しい制度として知事認定獣医師という民間獣医師を活用する制度がある。現在、それを活用するために準備をしており、条例改正等も進めている。

### (イ) その他

- **後藤和彦委員** この 2 年間、コロナのため様々な取組が中止やウェブ開催となった。

収束した際には、コロナを契機にやめてしまうのではなく、元のとおり実施していただきたい。

また、中学校の部活が必修ではなくなるような話を聞く。子ども達の健全な成長のためには食育などの食べ物のことや運動が非常に大切だと思っている。何か情報があれば教えていただきたい。

- **中川友治保健体育課保健体育担当課長** 中学生の部活動については生徒の自主的・自発的な活動として県の方針で定めている。中学生の部活動のあり方について、昨年度有識者の方々に御意見を伺い、中学生の活動を支える関係者に求められる役割・取組をまとめた提言をいただいた。現在、それを関係機関に周知して取組んでいるところ。
- **後藤和彦委員** 野球の県選抜などに関わっているような部活動に熱心な先生もいるので、学校の方針によって、そのような先生方の活動が無くなってしまいうことがないように、教育として大事にして欲しい。
- **山口真樹委員** 子ども達の体格を見ると、痩せている、太っている、背が高い低いが両極端になっているように感じる。体を作っていくために、食育だけでなく、先ほどの話のようにスポーツも重要だと思う。運動する子どもとしない子どもの差が開いている。60分運動ということで取り組んでいると思うが、さらに進めて、運動をしない子どもが延々と運動しない状況になってしまうことがないようにして欲しい。

#### (4) 閉会